

クラス番号	902	担当教員名	田倉 さやか
テーマ	障がいのある人たちとその家族の心理と支援		

ゼミナール概要

目的、内容、方法等：

本ゼミでは、障がいのある人やその家族に焦点を当て、基本的な知識を身につけ、障がいのある人の内的な世界や家族が抱く思いに目を向ける。障がいのある人にも幼少期、児童期、青年期、成人期とそれぞれの発達過程があり、その過程の中で困難となることや必要な支援は異なる。また、障がいのある人の成長とともに、彼らの家族もそれぞれの発達過程で様々な思いを抱いており、私たちは長期的な視点をもつことが非常に重要である。さらに、障がいのある人や家族の問題は社会とも大きく関わっており、彼らの心理に影響を与えている社会的な要因にも視点を広げ、理解していくことも必要不可欠である。

こうした課題において、まずは参考文献や資料等を通して整理し、理解していくことを第一の目的とする。文献や参考資料の講読を通して客観的な視点を身につけるとともに、そこから浮上した疑問を明らかにするための研究方法や結果の分析の仕方、考察の進め方、報告書のまとめ方についても学習する。

「障害」という言葉は私たちに様々な印象を与えるが、偏ったイメージも少なくない。本ゼミを通して、単一的な見方でなく、さまざまな角度から障がいのある人たちやその家族について考え、彼らにどう寄り添うことができるか自分なりに模索していけるようになることがねらいである。

授業計画：

前期：前半は、テキスト（杉山登志郎（著）「発達障害の豊かな世界」の予定）や映像資料を用いて、障害についての基礎知識をおさえながら、障がいのある人たちの心理や、支援のあり方、社会で課題となっていることについて整理する。グループごとにテキストや資料をまとめプレゼンテーションを行ったのち、クラス全体でディスカッションを行う。

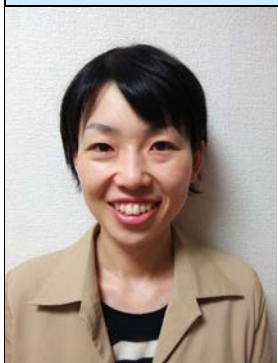
また、この分野に必要な研究方法についても、模擬調査を実施しながら体験的に学習する。

前期の終了時には、障がいのある人の心理や支援をテーマに、各個人がそれぞれ興味関心のある事柄について調べ、報告書をまとめる。

後期：書籍や研究論文を参照し、グループごとのプレゼンテーションやディスカッションを通して、障がいのある人たちの家族の心理や支援について理解を深める。後半は、グループごとに研究テーマを設定し、前期で学習した研究方法を利用し、実際に調査を実施する。その結果を分析、考察したのち、レジュメにまとめプレゼンテーションを行う。

後期の終了時には、グループで調査したことについて、各個人が再度考察や課題を整理しなおし報告書をまとめる。

担当教員からのメッセージ



このゼミでは、障がいのある人やその家族の心理にじっくり目を向け、多様な観点から自分なりの考えを導き出す、表現することを求めます。テキストや論文など読む課題も多くありますが、物事をじっくり考える力を身につけることも目標にしています。ただ、机上の学習だけでなく、積極的に外に出てさまざまな人と関わりをもつことを楽しむことも大事にしたいと思っています。皆さんと、ゼミを通してたくさんが発見ができることを楽しみにしています。